

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200033		
法人名	社会福祉法人 ゆたか福祉会		
事業所名	グループホーム 宝南の家		
所在地	愛知県名古屋市中区元塩町3-1-1		
自己評価作成日	平成24年8月13日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が、自立した生活が長く維持できるように、また心穏やかにホームの生活が続けられるように家庭的な雰囲気大切にしながら、健康管理については細心の注意を払っています。利用者の皆様が一番の楽しみの食事については、薄味を基本として栄養管理をしながら皆様の希望されるメニューを取り入れております。また、一人一人の状況に合わせて食べやすさを工夫しながら調理をしています。季節の行事に関しては、お雛様や節句人形を飾ったり、盆踊りや地域のお祭りなどにも参加しています。お花見の時は手作り弁当を作り、バースデー会の際は、カロリー控えめのケーキを作り皆さんでお祝いをしています。地域の方との交流や春と秋の日帰り温泉旅行なども楽しみにされています。また利用者の要望の高い喫茶店や外食などの行楽も月に何度か楽しんでいただくようにしています。また、社交ダンスを取り入れたり散歩や外出を増やすようにしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員と一緒に理念を唱和し、理念に沿った支援に努めている。利用者や家族のニーズに沿ったサービス提供をし、できるだけ自宅で過ごしてきたように遠慮することなくホームでも過ごして欲しいとの思いで職員は利用者に日々接している。職員の受け持ち担当制により利用者に寄り添った個別ケアを実施している。地域ボランティアの受け入れや地域消防団の協力で避難訓練の実施もしており、積極的に地域との交流をおこなっている。毎日の買い物や散歩以外に喫茶や外食の行楽、日帰り旅行等外出の支援が充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方と「私たちの思い」を一日おきに唱和してお互いに思いを共有するようにしている。そしてより利用者への介護の充実につながるように心がけている。	理念を解りやすくした「私たちの思い」をリビングの壁や事務所内に掲示し、利用者も一緒に唱和している。唱和したりいつも見ることにより、職員の理念の共有ができ介護の統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のお買い物や、学生さんのボランティアの受け入れ、地域の方たちによる演芸会などのつながりを持ちゴミ当番を引き受けて利用者も一緒に立ち当番をするなど可能な限り、地域の方との交流をしている。	女性会の盆踊りやフラダンス等のボランティア受け入れ、買い物や散歩等の外出時には近所の方が挨拶や声を掛けてくれる。地域行事のふれあい祭りや盆踊りに参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修に参加するようにして力量を高め地域の方からの個別的な相談にも乗るなど地域とのかかわりを大切にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方との交流が継続しており、毎年取り組んでいる「日帰り温泉旅行」では利用者家族の参加や、委員の方の紹介を通してボランティアさんが継続している。	家族や老人会会長、いきいき支援センター職員等の参加により2か月ごとに開催し、活動状況報告に対する評価や助言等が出され有意義なものとなっている。また地域の情報を得る機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南区南部いきいき支援センターの方が運営推進会議に可能な限り参加してくださり、お互いの情報交換をするように努めている。また、生活保護の担当者の方とは必要に応じて連絡を取り合い協力し合っている。	区役所の生活保護の担当者には利用者の状況報告や必要時には相談をしている。	福祉課へ手続等で出かけた際にホームの情報を伝え、福祉課とも連携が図れるよう努めて欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事を原則に介護に取り組んでいる。状況に応じて転倒などの危険が予測される場合は会議で話し合いご家族に相談して理解と同意を得ることとしている。また帰宅願望においては納得のいくまで付き合うようにしている。	研修を受講した職員が、職員会議で伝達講習をおこなっている。身体拘束をされた時の気持ちを理解するために、全職員が身体拘束を自ら体験している。不適切な言葉遣いがあった場合には、注意して改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	細心の注意を払って防止に努め、職員会議などでも話し合い虐待のないように努めている。また利用者さんの間のもめごとやトラブルにも注意して穏やかに過ごせるように気配りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターの仕事をされている運営推進委員の方の協力で学習会を行い、権利擁護について学ぶことができた。また、職員会議でも成年後見制度のパンフを基に学習会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には前もって書面に目を通していただき、その上で説明を行うなど理解と納得を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、投函されてはいない。面会に来られた家族から要望や相談などを受け、そのつど対応している。また重度化した場合のレベルに合わせ相談を密に行うようにしている。	利用者の状況変化に合わせ家族等に連絡し、その際に意見や要望等を話してもらっており、職員で情報共有をしている。例えば家族からの要望により、白寿を迎えた利用者を家族が持参したおやつで祝った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常では職員専用の連絡ノートを活用して個人的な意見を書いている。また2ヶ月に一度の職員会議で話し合いの時間を持てるようにしている。	管理者がその都度 直接話を聞き対処しているが、時には職員会議で話し合うこともある。職員の意見を運営に反映させるよう努めている。例えば、休みは希望をできるだけ聞き入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する時は、労働時間などを考慮して、可能な限り希望を取り入れるようにしている。また今年から年休管理を各自で行うようになり少しずつ年休消化をするように勧めている。またお互いに協力して連休も取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を位置づけ保障している。また出席した職員が職員会議で学習した内容を報告、レクチャーするようにて、学んだものを共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームでは名介研、南区介護事業者連絡会、なごや東南部グループホーム交流会に加入しており2か月に1度の交流会、学習会には積極的に参加しており毎回多数の職員が参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体の不調や不安、要求などを言葉で表現することができない方もみえる為、一人一人のしぐさや行動などをよく観察して必要な援助を早めに行うよう実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでに1～2回は当ホームの見学や説明を行い情報交換を行うようにしている。また、ホームに面会に出来ない家族にも連絡を取り合い家族の思いや要望を聞いて利用者や家族が安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに入居された後、必要と思われる往診や居室の変更など本人や家族と相談して決めている。またセンター方式を利用してお話を伺い何が必要な支援かを家族やケアマネージャーとも話し合いを重ねて見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事やベランダ園芸など、自分で出来ることは自分で、出来ないことは援助をして職員も利用者もお互い助け合いながら楽しく同じ時間を共有するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる方達がいつでも気兼ねなく来ていただけるように出迎えている。利用者の方たちをホームの内外でともに支えあえるよう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外で面会に見える方達へのおもてなしも含め、馴染みの人との関係が途切れないように誕生日会の時に招待し、一緒にお祝いをしていただくなどの支援をしている。友人との外出や冠婚葬祭などにも行けるように支援している。	利用者の中には友人が毎日、新聞を持ってきてくれたり、近くのスーパー銭湯に一緒に外出している者もいる。また、正月やお盆等に自宅まで外出したり、帰省している孫の来訪がある。携帯電話を持っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、居間の座る場所なども調整して疎外感や孤立をなくし楽しく生活できるように取り組んでいる。利用者も2日に1回は「私たちの思い」の理念を読み合わせして、そうだね、そうしよう、と話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた後は面会に行き、亡くなられた時には弔問に行くなどして経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	野菜作りや晩酌、社交ダンスなどを希望される方もみえるので楽しみを見つけてその人らしい暮らしができるように支援している。ペランダで野菜を作ったり社交ダンスもボランティアを依頼してダンス教室を開催したりした。	入居時に本人や家族から生活歴や嗜好、趣味等の他、希望や意向などの把握に努めている。意思表示が難しい場合には、行動や表情から思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して、その人らしい生活の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時の情報などで知ることと合わせ、入居された後に入浴時や日々の会話から情報を得ることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で情報を共有し1人1人の生活リズムや健康状態などを把握しながら統一した支援を行えるように努めている。また職員会議の時にモニタリングを取り上げるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の希望、必要と思われるケアを中心に立案しており、受け持ち担当が「私の姿シート」を作成している。受け持ち担当制により、さらに寄り添った個別ケアを実施できている。	利用者等の意向や要望を基に職員の気づきや思い、介護記録を検討し、その人らしい暮らしの実現を目指した介護計画を作成している。実施しているケアが計画に沿っているかがわかるように利用者の個別記録に計画書をファイルしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が日々の実践に活かせるように工夫をし職員間で統一したケアが行えるように情報を共有しあえるよう個別ファイルに変化や追加点などを記入している。また日々の申し送りや職員会議で全員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスで行われる演芸などを広々とした空間で楽しんでもらっている。利用者で入院や手術が必要となった場合は、付き添いなどについてご家族と相談し、ホームとしても出来る限りの協力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候の良い日などは地域のゴミ当番の時に利用者の方も一緒に参加し地域の方と言葉を交わしたりしている。健康福祉祭りや盆踊りなど地域の行事も、利用者の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回ホームドクターの往診を受け必要時は皮膚科往診、歯科往診、眼科など適切な医療を受けられるよう支援している。医療機関とは連絡ノートを利用し情報を共有している。	入居時に確認をし、全員が協力医をかかりつけ医としている。各種専門医での受診は家族と協力して行い、受診ノートや往診ノートで薬の情報など全職員で共有し、ケアに活かしている。入院時には、介護情報を医療機関に提出し、支援に努めている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の勤務日には利用者の情報交換をして看護師の目から見た助言や支持を受けており、勤務日以外でも利用者の容態の変化時には連絡をし、対応してもらっている。異常時の報告がスムーズになってきており対応がし易い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の通院なども一緒に付き添い、入院した際にもサマリーを渡し、医師や看護師と情報交換をし、安心して治療ができるようにフォローしている。また洗濯物などを取りにこまめに顔を出して関係が途切れないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化方針に基づいて本人や家族と話し合い、相談や連絡を重ねて、ホームとして可能な限り希望や要求に添うように努力し、本人と家族にとって最善の方法を考えている。	重度化対応指針を作成している。入居時にホームの現状と重度化について説明をし、必要になった時にはその都度話し合い、方針を決定することで同意を得て、同意書を交わしている。法人及び管理者は社会的情勢から、ホームでの看取りの要望が見込まれるため、実施を前提に検討している。	利用者の重度化において、本人、家族等の意向に沿った支援が出来るよう、職員への教育、指導及び体制づくり等の環境整備の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際の利用者の急変時や事故発生時には事故報告書やヒヤリハットなどを通して職員間で話し合い統一した対応が出来るようにしている。また年に1回の防災訓練時に救急救命の講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ALSOKの定期点検の立ち会い、夜間の防災訓練も年に2回利用者の協力を得て行っている。地域消防団からはデイスサービスとの合同訓練では救命救急時の対応、避難誘導、消火訓練などの指導及び実施訓練を年1回受けている。	地域の消防団の指導の下、各種の防災訓練に参加しホームの防災備蓄用品の点検を実施するなど、職員の防災に関する意識が高く、内容の周知徹底が図られている。管理者は今後、多方面からの協力が得られる様にしたいと考えている。	運営推進会議のメンバーから提案されているが、いつ発生するか判らない災害時に、迅速な対応が出来るよう、多様な場面を想定した訓練をくり返し実施する事に期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重の点からも個人の尊厳を尊重した言葉使いを日常的に気を付けている。1人1人の個性を尊重し、プライバシーの確保にも気を付け、その人に合ったケアを実施している。	人権の尊重、プライバシーの保護を重視し、嫌な事は大声で言わない、利用者の不適切な話題はさりげなく言い換えるよう管理者は職員に伝えている。勉強会等の実施はないが、現場でその都度指導し徹底に努めている。記録は見守りながらフロアーで行い、ラックに入れ、事務所内に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話の中で本人の思いや希望を聞き、その人らしく生活できるように支援している。モーニングやダンスなど、食べたいものや行きたいところ、したいことなど利用者の方から出される希望にも添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遠慮されている利用者の方もみえるかもしれないので利用者の方をよく知り、何でも話しやすい関係づくりを心掛けている。仏壇のある方が毎朝夕お茶をお供えされていることを知り、気兼ねなくお茶を替えられるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧をする方やしっかり頭髪を整えられる方、服を着替える前に口腔ケアをする方など、それぞれ自分のペースで生活されている。2か月に一度ボランティアの方に来ていただき、希望される方は散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食のチラシ寿司、いなり寿司、おはぎ作りの時などは利用者の方と一緒に賑やかに食事作りを楽しみ、日々の暮らしでは洗い物や盛り付け、もやしのひげ取りなど利用者の調理参加が増えている。	食材は配食を利用し、調理法や味付けは利用者の体調や希望に配慮している。行事食は利用者と共に買い物を一緒に調理を行い、楽しい会食の機会となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え医食同源の献立となるように心がけ、また一人一人の状況に合わせ食べやすい形で提供している。水分は欲しい時に飲んでいただけるようにしながら、利用者全員の飲水量を把握して個人ファイルに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをしていただいております、ご自分で出来ない方は介助し、義歯のある方は毎晩消毒をしている。歯科検診も利用して口腔内の清潔と予防と治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用している方もすべてトイレでの排泄を支援している。個々の状況に合わせて時間を決めてトイレ誘導を行い失敗の回数を減らす支援をしている。また自己管理できない方には毎朝交換してもらい清潔に心がけている。	利用者が当たり前の生活を送れるよう、トイレ利用の支援に努めている。職員は利用者のタイミングを把握しトイレ誘導を行い、ほぼ自立した利用者もいる。排泄チェックは体調管理が必要な方のみとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や飲水の勧め、リハビリ体操などで便秘の予防をしている。大腸の病気があったり頑固な便秘症の方など必要な場合は定期往診時医師と相談して緩下剤などを使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は一応決めているが必要時毎日シャワーを使ってもらったり、一人一人の気持ちを大切に拒否される時もタイミングを見るなどなどして個々の利用者に合った支援をしている。	入浴は週3回、曜日を決め、利用者の希望に沿って実施している。利用者の体調に合わせてシャワー浴や足浴などで対応し、入りたがらない方には、声かけやタイミング等に配慮し入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し眠れない時などはお話を傾聴したりして満足して居室に戻れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の処方一覧表を用意し職員は薬の目的や副作用などを把握するするようにしている。1人1人に合った服薬方法をして薬を飲み込むまで見届け、確実に服用していたいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のペースを大切に生活をしていただきティータイムは自分の好きな飲み物で、皆さんとおしゃべりを楽しませている。気候の良い時は喫茶行楽に出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のお買い物や、散歩や喫茶行楽、外食行楽、運営推進委員の方達の協力を得て年2回の日帰り旅行など外出の機会を持てるように取り組んでいる。ボランティアの方達との輪も広がってきている。	外出チェック表を作成して利用者の外出の片寄りを防いでいる。毎月の行事で外出の計画がある他、家族と外出する方もいる。また、ベランダでは花や野菜を育て、季節を感じながらの外気浴や気分転換の配慮に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員に委ねられる事が殆どだったが個人の財布を渡すと支払いをされる方もみえるので個々の能力に合わせての支援を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はみえないが、電話を希望される方に対しては時間帯など考慮しながら支援している。携帯を持参されている方もみえるが、週に1回家族の方が来られ充電などをして下さっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心がけ掃除も一緒に行い、居間には季節ごとに利用者が作った貼り絵や飾り物を飾り、昭和初期の歌を流し、七夕、クリスマス、正月、ひなまつりなどの季節の行事を楽しんでいる。	今年度の目標達成計画に、利用者ができる範囲で、生活リハビリを兼ねて清掃を行なうを目標に掲げて取り組み、施設内は清潔に保たれている。壁の貼り絵やぬり絵が季節感を出している。訪問時、フロアで職員による琴の伴奏で、馴染みの歌を楽しむ利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おおむねできている。テーブルの座る位置なども気を付けて利用者の方が楽しく過ごせるようにして、ソファではゆっくりと利用者の方同士おしゃべりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の状態に合わせ本人と家族の方と相談しながら使い慣れた家具を置いて居心地の良い居場所づくりを工夫している。	居室入り口には、利用者本人の顔写真を掲げて、混乱を防ぐ配慮をしている。室内には使い慣れた家具や仕事道具、犬のぬいぐるみ、楽しめたであろうゴルフ用具、仏壇、位牌、家族の写真などが配置され、その人らしい生活環境づくりに取り組み、落ち着いた雰囲気でも過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は階上と階下の造りになっているが、各フロア共バリアフリーとなっている。階段の両側には手摺を設置し、障害を持ったときも車椅子での生活が送れるように洗面台や鍵の位置も工夫している。トイレには大きな文字で「トイレ」「便所」と書いて分かり易くしている		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2391200033
事業所名	グループホーム 宝南の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	地域のボランティアの受け入れをおこなっている。毎日の買い物や散歩等の外出時に地域の方と挨拶や言葉を交わしている。地域行事に参加、ゴミの集積所の当番をし、地域の一員として交流している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	計画を立て、年6回開催している。家族代表や地域の方、いきき支援センター職員等の参加がある。活動報告に対する評価や助言、地域の情報を得る機会となっている。委員からはボランティアを継続して紹介してもらっている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	区役所の保護係とは必要に応じて連絡を取り合い協力し合っている。市主催の研修会等に職員が参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族と職員の関係は良好で、来訪時や電話連絡時に直接意見や要望を聴き、職員間で共有し、その都度対応している。毎月「宝の家便り」を請求書と一緒に送っている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。